

民族藝術学会例会発表要旨（2020.6.27）

S. スジヨヨノにみる近代インドネシア人画家像の創出： 《チャプ・ゴー・マー》（1940）
を中心に

羽鳥悠樹（九州芸文館）

インドネシア近代美術の父と呼ばれる S. スジヨヨノ（1913-1986）が1940年に描いた《チャプ・ゴー・マー》は、そのテーマや様式の特異さから、インドネシア近代美術史における重要性が指摘されてきた。しかし、これまで詳細な作品研究はほとんど行われてこなかった。本発表では、モチーフを詳細に検討し、当時の社会状況と照らし合わせて考察することで、本作が当時のバタヴィアの混血的な文化状況を反映したものであることを明らかにした。